

特定非営利活動法人

AMDA
国際医療情報
センター

2025年度 活動報告
2026年度 事業計画

目次

- 02 理事長あいさつ
- 03 2025年度事業報告
- 07 2026年度事業計画
- 11 みなさまからのご支援
- 12 ミッション・ビジョン・バリュー
- 13 活動計算書・貸借対照表

おかげさまで、AMDA国際医療情報センターが活動を始めから丸35年になりました。絶え間ない活動ができたことに対して、この組織の内外から応援してくださったすべての皆様に心より、感謝御礼申し上げます。

日本に在住する外国人の数は初めて400万人に迫っており、外国人観光客の増加と併せて、言葉や習慣が異なる人々を我が国にどのように受け入れていくのかが一層、重要になっていると思います。

「平等」の意味をよく噛みしめ、外国人への差別は許されるわけありませんが、一方では日本人側から見て逆差別と思ってしまうようなことがないよう、施策や言動には熟慮が必要でありましょう。

とくに付け加えたいことはAIの急速な進歩により、希少言語の通訳翻訳までもが手持ちのスマホで驚くほど簡単に

瞬時にできてしまうようになったことです。

これには有事の責任の問題等、指摘はされていますが、手軽さから圧倒的な広がりを見せていると日常の診療から感じます。実際、有料の電話通訳翻訳サービスは利用者数の減少に直面しており、いずれ、経営上の問題にも発展することでしょう。ただし、無料であるこれらのセンターのサービス利用には大きな影響はないかもしれません。センターが開設以来36年間、多くの医療機関を始めとする組織や個人からの信頼を得て、積み上げてきた無料の多言語での医療・医事相談は今後も頼られる存在となることでしょう。皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2026年5月吉日
理事長 小林 米幸

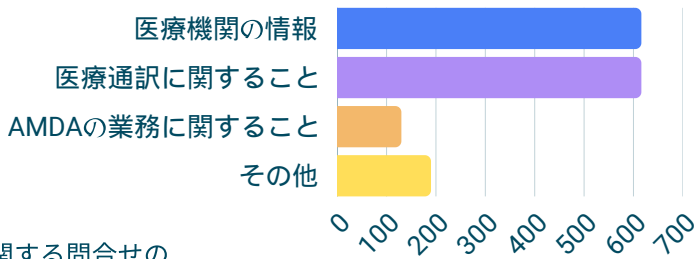
理事長 米幸

相談実績



電話件数 **1,457** 件
(前年比1.2倍)

相談内容



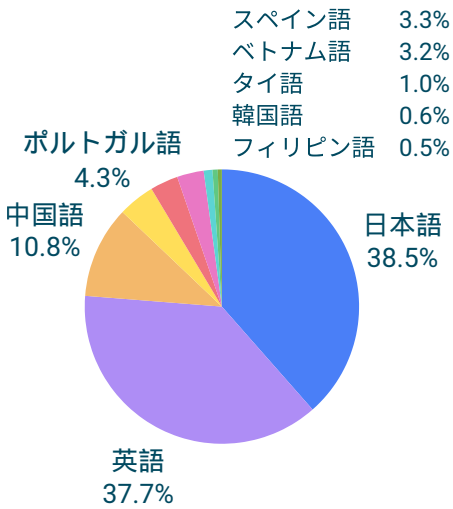
医療通訳に関する問合せの多さに比べ、実際の通訳につながる割合は少ない。三者通話による予約支援を開始したことも影響しているとみられる

医療通訳についての問い合わせ数が医療機関の情報提供数に迫る

対応言語

日本語での対応が最多となった

医療通訳についての問い合わせの多さが、日本語での問い合わせの多さに繋がっているとみられる



三者通話による予約支援



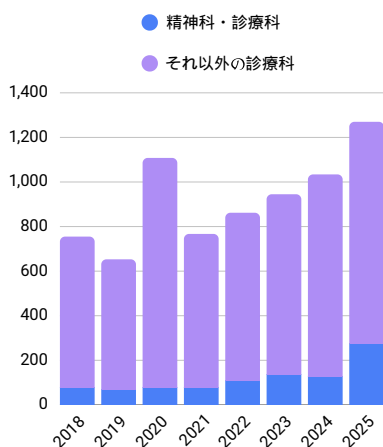
三者通話による
支援件数

67 件

予約支援の需要が
あることが判明

外国語対応可能な医師が在籍していても、受付・事務手続・看護場面等で言語的不安が残ることで受診につながりにくいケースがある。このため、診察場面に限定しない言語支援を開始したところ、実際の受診成立につながる事例が見られた。

相談時の診療科



精神科の相談は増加の一途

日本語が不得手な外国人にとって、精神科・心療内科の受診は、身体疾患以上に高い障壁を伴う。症状や感情を言語化する難しさに加え、医療機関側においても、母語以外での精神科診療や治療効果に不安や慎重な姿勢が見られる場合があるためである。当センターでは、こうした課題を踏まえ、外国人の精神科受診支援を重点分野の一つとして取り組んでいきたい。

通 訳 実 績

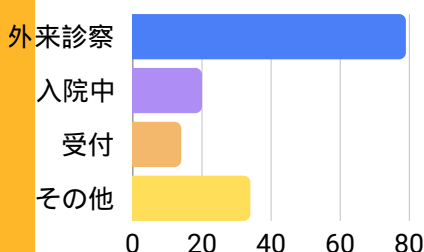


通訳件数 **132** 件
(前年比1.6倍)



総通訳時間 約 **64** 時間
(1件あたり平均約30分)

利用場面



外来診察場面での通訳が最多

通訳支援の半数以上が外来診療で実施され、外国人患者が日常的な医療にアクセスするために医療通訳を必要とすることがあると示唆される。

通訳診療科

精神科・心療内科の通訳に特徴

精神科・心療内科の通訳利用が多い背景には、継続通院患者による反復利用があると考えられる。内科・外科などの身体科診療では、急性疾患に対する数回の受診で終診となるケースも多い一方、精神科・心療内科では継続的な診療関係が必要となる場合が多く、通訳支援も長期的に求められる傾向がみられた。

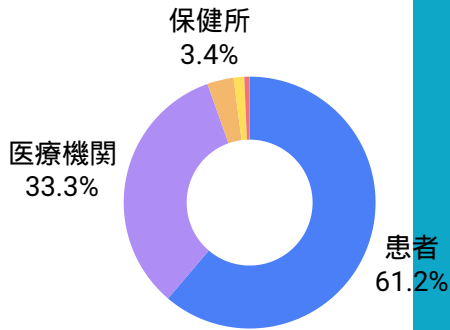


患者から依頼できる 遠隔医療通訳

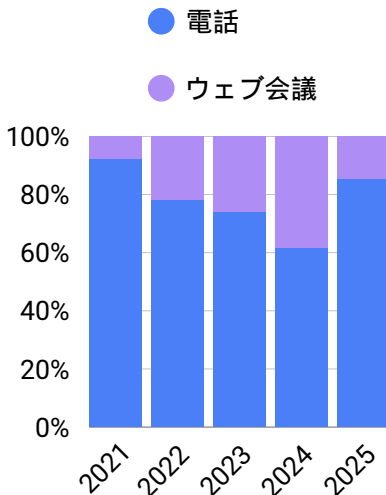
通訳依頼元

患者からの依頼が6割

通訳依頼元は患者本人からが約6割を占めた。2024年12月までは患者本人からの直接依頼を受け付けていなかったが、運用変更後は患者からの利用が増加し、通訳件数増加の一因となったと考えられる。



通訳手段



患者からの依頼を受けていることで電話通訳件数が増加

2021～2024年度にかけては、医療機関との連携によるWeb会議通訳の利用が経時的に増加していた。一方、2025年度は患者本人からの通訳依頼受付を開始したことにより、電話通訳件数が増加した。現在、患者本人からの依頼についてはWeb会議通訳には対応しておらず、この運用体制の違いが通訳手段の構成変化に影響したと考えられる。

その他の事業

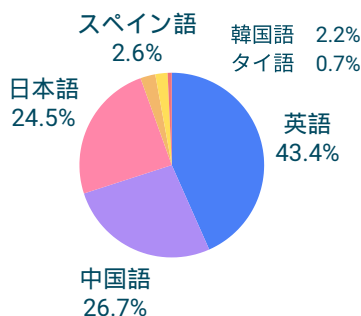
受託事業

東京都保健医療情報センターひまわり外国語対応室



電話件数 **12,928** 件

言語の内訳



神奈川県大和市 翻訳受託

予防接種予診票ほか 13種類 1～4言語

協議会・検討会委員

東京都 外国人患者への医療等に関する協議会

神奈川県 外国人医療推進検討会議会

レセプション

英国大使館 New Years Reception

講義・講演

福山市医師会看護専門学校
朝日医療大学校
大阪医療センター附属岡山看護助産学校

NPO法人東海ヘルプライン東海 つなぎ方研究会

「夜間・休日ワンストップ窓口の運用等・希少言語に対応した
遠隔通訳サービスの提供」第3回説明会

東京都 令和7年度 医療機関における外国人患者対応支援研修

当センターについて掲載依頼をいただいた自治体

世田谷区 Life in Setagaya 2025
茅ヶ崎市 市民便利帳
彦根市 生活ガイド
刈谷市 外国人のための困りごと相談つなぎ方ガイドブック
姫路市 令和7年度生活ガイドブック
那覇市 ウェブサイト
西宮市 ゲートキーパー手帳
東広島市 ウェブサイト
福岡よかトピア国際交流財団 ウェブサイト
静岡県国際交流協会 ウェブサイト
焼津市 外国語版広報やいづ
高知県立病院 院内ポスター掲示
郡山市 ウェブサイト
鹿児島市国際交流財団 ウェブサイト

センター内研修

日本の精神保健医療サービス ～外国人への支援の視点から～
東京科学大学精神保健看護学分野 谷口 麻希 氏

新人研修

韓国語	5名
タイ語	3名
英語	2名
スペイン語	1名
相談サポート	1名
ボランティアスタッフ	2名